

2020 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価	
作成日 令和3年3月1日	
法人名	園名
愛和シャローム会	みつばこども園
まとめ	
第2章第2節 乳児期の園児の保育	保育者との信頼関係の中、情緒が安定し、安心して過ごせるように、一人ひとりの発育に応じて関わっている。また、戸外での活動（園庭遊びや散歩など）を通して、色々なものを見ること触れることにより、気づくこどもたちの姿が見られる。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	保育者に見守られながら、落ち着いた雰囲気の中で楽しく食事をしたり、一定時間睡眠がとれるようさらに努めていく。リズム遊び、手遊び、リズム遊びなど、体を自由に動かして表現することを楽しんでいる。また、四季の歌を歌ったりして、季節を感じたりできるように工夫している。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	全体的に充実した自己評価が得られていた。これは、園の保育・教育理念から、園の環境を十分に生かして、園児の心と体の成長が感じられ、保育者と園児との信頼関係が深まっていることも考えられる。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	感染症対策に取り組みながら、園児一人ひとりの成長を大切に見守っていることが評価されている。園児の自発的な活動を尊重し、活動しやすい環境づくりにさらに努めていく。
第3章 健康及び安全	今年度はコロナ禍にあり、食育、衛生管理、災害への備え等、内容の見直しや新たな取り組みが必要となり、対応してきた。園児や職員の命を守るため、様々な状況に応じた訓練や対策を講じていきたい。
第4章 子育ての支援	連絡帳や会話、ハグノートを通して、子供の成長や活動の様子を伝え安心して子育てができるよう心掛けることによって、信頼関係を築いている。また、地域の人材を活用したり、地域の親子が気軽に足を運べるような機会を提供し、地域との関わりにも積極的に取り組んでいく必要を感じている。
第5章 職員の資質向上	保育の質の向上を目指し、研修で知り得た内容を職員間で理解する機会を作っている。それぞれの職位に応じたキャリアパスの形成や、より専門性の高い研修に参加できる機会を提供していきたい。
総合	今年度はこれまで経験したことのないコロナ禍の中にありながらも、限られた環境の中で様々な工夫を凝らしながらそれぞれの年齢に応じた取組を行ってきた。また職員一人ひとりが園の教育・保育理念でもある「こどもにとって最もすやかな生活の場で、それぞれの発達段階に応じた愛と信頼に満ちたあたたかい保育と教育」を行ってきたと実感することができる。自己評価をすることによって園の取り組みの良さと改善点が分かり、今後改善してより質の高い教育・保育を目指していきたい。